今日のみことば

□　６月18日（日）　ニヨハネ　1章
異端に対する警告の手紙である。異端は受肉の主キリストを認めない。しかし私たちは聖書が示すままのキリスト教にととまらねばなりません。

□　６月19日（月）　三ヨハネ　1章
主にある者は、いつも恵まれている。かといって感謝、感謝とばかり言っておるのではなく、神の恵みのよって強められ、あらゆることにおいて、神の栄光を現さねばならない。

□　６月20日（火）　ユダ　1章
この手紙は「聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなた方に勧める」ために書かれたものです。神の武具を身につけ、御霊によって祈りつつ戦うのです。

□　６月21日（水）　黙示録　1章
主が復活された日、ヨハネは主から特別な掲示を受けましたそれは七つの教会に対するメッセージでした。迫害の嵐がキリスト教会を襲い始めることでした。

□　６月22日（木）　黙示録　2章
始めの愛を失ったエフェソの教会。苦しみの中での信仰をほめられたスミルナの教会。妥協を許容しているペルガモガモの教会。不品行を許容しているティアティラの教会への忠言。

□　６月23日（金）　黙示録　3章
生きているのは名のみで、実は死んでいるといわれるサルディスの教会。主に忠実なフィラデルフィアの教会。自己満足に陥って生ぬるいといわれるラオディキアの教会。

□　６月24日（土）　黙示録　4章
ヨハネは神の主権性について啓示を受ける。神の権威に挑戦するすべての者は、神の偉大さのゆえに、御前に腰をかがめなければならない。

ろ　ば　No.1820

２０１７年　６月１８日
日本ﾊﾞﾌﾟﾃｽﾄ 立川ｷﾘｽﾄ教会
牧師　大川　博之

エレミヤ 5:1

エルサレムの通りを巡り／よく見て、悟るがよい。広場で尋ねてみよ、ひとりでもいるか／正義を行い、真実を求める者が。いれば、わたしはエルサレムを赦そう。

天の父なる神の栄光が限りなく私たちの上にありますようにと私は祈っています。神が父でいますこと、私は何のためらいもなく受け止めてきました。けれどもある人たちにとっては、それは差別だと言われます。「母の日」「父の日」ではなく、「家族の日」として覚えることを告げられる方もあります。私はそれらの言葉を踏まえながら、聖書が私たちに語る真実を、共に聞かせていただきたいと願っています。それが「父」としての主なる神です。

聖書は、父なる神の御心に従って民を導く族長に、権威を見てきました。そこには聖書が「父」を語るときの意味があります。万物の創造主として、すべての生命の起源・源泉として、特に人間生命の源をたどれば神の創造に発するところからです。これはすべての思想の越えたものであると思っています。

私は、私たちが「父」と呼ばれるとき、それらすべてを含んだものとして理解されるので、当然のことながらその責任の重大さを忘れさせていただくことはできません。神はいつもそのことで私たちを問われます。エレミヤは神からのこのような問いに、どのように答えたのでしょうか。

エレミヤはヨシヤ王が宗教改革運動を始めた時期、預言者として立てられました。この宗教改革運動は頓挫しました。その後に立てられた王は、決して父なる神に忠実ではなく、エレミ

ヤの罪の告発に耳を傾けるものはなく、エレミヤは迫害されて捕らわれ入獄さえしました。国家の父たる王の姿勢は、イスラエル王国の滅亡を招きました。そこにはしっかりと民族の父としての有り様が問われるのです。今日、私たちの国で起こっている一つの出来事もまた、為政者の姿勢と責任を問う出来事につながっていますが、「父」を思うとき、私たちにとっては避けて通ることが出来ない課題です。

私は、私たちの信仰生活の様々な場面で、詩篇に慰めと導きをいただいてきました。その第一編は、その序言であると共に基本のメッセージが告げられています。すべての人が心して聞き、自らを正されるみ言葉です。そこには父たる者が、民の導き手である者が心得べき大切のものがあるのです。天地創造の初めに神が人間に託された働きを思い起こさせていただくのです。そして民の父祖アブラハムが歩んだ道を私たちはしっかりと心に留めさせられるのです。

神の啓示としての律法に従う正しい者の祝福と、それを問題としない者の末路に言及する対比こそが、求められている問題の大切なところだと思っています。エレミヤへの指摘も実はここにあろうかと思っています。エレミヤが祖国の滅び行く様を見ながら、神に立てられた王がどのように振る舞ったか。いま私は「父の日」を覚えながら、私は神の創造の秩序は大切な神の御心であり、心に込めて父が生きるべきであろうと思っています。

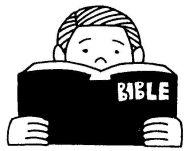
次週の聖書・説教	一ﾃﾓﾃ4:4-16　年が若いからといって

《 聖書の学び・祈祷会 》

創世記42:1-25　　確かな愛

エジプトが飢饉に見舞われたとき、その周辺の国々も同様でカナンにまでそれが及んだとき、ヤコブの一族もエジプトへ食料買い出しに出かけた。食料長官であった久方ぶりに兄たちと会ったが、兄たちを荒々しく取り扱った。兄たちはヨセフとは見抜けなかった。ヨセフは自分を苦しめた兄たちが、どのように変わったか試されたのです。更に兄たちの真実を試みましたその試みを通して、兄たちの良心が目覚めてきていることを彼らの会話で知るのでした。

このことによって私たちは大切なことを学ばさせていただくのです。私たちはいつも良心を鋭くとぎすまし、良心をたえず真実に保っておくことがいかに大切であるかということです。罪のよって深く腐敗させられている良心は、み言葉の光によって照らされ、聖霊に導かれねばなりません。兄たちさらに試みられることになります。



Read God's Word.